LUZ の熊野古道案内

2006 年　5 月　上

5 月 1 日　～　5 月　8 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００６年　**5** 月

5 月　１日　ゴールデン・ウィークと熊野古道
5 月　２日　ゴールデンウィークの交通事情
5 月　３日　熊野古道と脇道　**1**　とおり峠
5 月　４日　熊野古道と脇道　**2**　風伝峠・茶屋
5 月　５日　熊野古道と脇道　**3**　風伝峠
5 月　６日　熊野古道と脇道　４　風伝峠
5 月　７日　ゴールデンウィークの紀勢本線
5 月　８日　熊野古道案内　丸一年　ありがとうございます

2006 年　05 月　01 日

熊野の旅　ゴールデン・ウィークと熊野古道

国内の観光は長年、下火とはいえ、日本人はゴールデン・ウィークと聞くとどこかに行きたくなるものらしいですね。

昔は、春の観光シーズンともなると、１号車・２号車・３号車…１２号車などとものすごい数の観光バスが列をなして南紀勝浦に向かって走ったものです。その当時には観光地と言えば鬼ヶ城・獅子岩・那智山・瀞八丁くらいのものでした。

道が悪かったにしろ『本宮大社』などに回る観光客はほとんど居ませんでした。新宮の町中にあり、目の前を国道が抜けている『速玉大社』ですら素通りしていたものです。

まして『熊野古道』なんてものは本当に限られたマニアの訪れるところでした。道は寸断され通れないところのたくさんありました。三重県側の『伊勢道』になると山林労務の道として使われるところ以外は分からなくなっていたものです。

時代は変わり、観光バスが走ることも珍しくなり、列車は空っぽと言う状況になり勝浦温泉では随分旅館が廃業しました。もう少し都会に近い『南紀白浜』などはゴーストタウン化したのかと昔日を知る者は感じるほどです。

そこに降ってわいた『世界遺産指定』でしたから、お役所と一部の観光業者は小躍りしたようです。私などは覚めた目で見ていたので不思議がられましたが、観光ってそんなに甘いものではないですからね。

最大の都市、東京から 550Km・・・列車で来て運賃だけで３万円・・・旅館は１万以上・・・

アメリカ西海岸まで４万円とか・・・グアムなら３万・・・ホテルは 20＄もあれば・・・

これでは馬鹿らしくて若い人などこちらに来ませんよね。

目の前の国道４２号線は確かに普段より車は多くなっています。もちろん停滞など縁の無い程度ですがね。

鬼ヶ城とか本宮・速玉・など旧来の観光地には少しは駐車場も用意されていますが、熊野古道に関してはほとんど用意されていません。入り口付近に数台とかの話です。
ありがたいことにそれが麻痺するほどマイカーのお客さんが来ていません。他の観光地ほど車の客が来たらなんともならなくなって地元とのトラブルが発生するでしょうが、そうはならないです。
あと二年もすれば『熊野古道』が『世界遺産』であることが世の中では忘れられると思います。
しかし、『熊野古道』は消えるわけではありません。少し草生して荒れ加減になったほうが『らしく』なると思います。そのときになって良さの分かる人に来ていただきたいですね。

新緑に覆われだした『松本峠』です。連休ならすれ違う人も居ると尾思います。普段は道の真ん中に三脚を立てていても大丈夫です。人払いしなくても写真は撮れます。

by **je2luz** | 2006-05-01 11:45

2006 年　05 月　02 日

熊野の旅　ゴールデンウィークの交通事情

国道４２号線熊野市木本町２８０番地地先　５月１日

午後２時

午後４時半

左・上り　尾鷲・名古屋・大阪方面　　右・下り　新宮・熊野三山方面

任意抽出という統計の方法がありますが、我が家の前の国道４２号線を何も考えずに門から出て上り方向と下り方向を二回写真に撮りました。それが上の二組です。
サンプリングには数が少ないのですが、目をつぶって横断しても轢かれる率が少ないような状態です。住民としては非常にありがたい状況です。
この国道４２号線はこの片側一車線が全てで、バイパスなど存在しません。木本町に入っている車以外は全てここを通るのです。それがこの状況ですから静かなわけです。

テレビでは黒部渓谷の電車の開通や野麦峠の開通で夏の行楽シーズン到来を報じています。半年ほどしか見ることの出来ない季節限定の観光地ですね。取り立てて何も無いと言えるようなところでもシーズン中の入り込み客見込み数が熊野市の年間実績より多いんですね。
この数字は主催者発表的なもので割り引かないといけないのですが、掛け率が同じならやはり少ない方は少ないのです。

この道路を見ると、簡易保養センター閉鎖もやむなし…と思いますね。
連休の中休みとはいえ、この状態ですから安心してこられるのではないかと思います。
この国道が込むのはお盆・正月の夕方と熊野大花火大会の日だけです。観光地が大きな駐車場を用意しないのは事実上必要ないからのようです。
それに、熊野三山をはじめ熊野の神社仏閣は拝観料なるものは取っていません。遠いとは言え、５箇所回れば一人で２５００円以上は他の観光寺より安く上がります。お二人なら、遠い分のガソリン代は出ますよ。

by **je2luz** | 2006-05-02 11:20

2006 年　05 月　03 日

熊野の旅　熊野古道と脇道　1　とおり峠

古の道はなにも熊野古道に限ったものではありません。人の住むところには道ができました。
人が生活すると人が動き物が動いてそこに道ができたからです。
先人たちはそうした集落間を結ぶ道を大切にしてきました。
踏み固めただけの道では土が流れ出し歩くこともできなくなるため、石畳を作り、崩れよい斜面には石垣を積んで道を作りました。こうした作業は地元の有力者の寄進と地元の人たちの勤労奉仕から成り立っていました。道具もまともに無い時代から営々として続けられたことでしょう。

熊野古道本道の伊勢道・浜街道から分かれて、本宮、玉置山、吉野修験道奥駆け道方面に抜ける道も何本かありました。その中で熊野古道関連で整備されているものの中に拡大熊野市の紀和町には『とおり峠』と言うものがあります。

山間の狭い道で、この辺りに縦横に張り巡らされた道の一本です。ハイキング用に整備されているのは、道路から上に残された峠付近だけなので簡単に踏破できます。
ここを歩きに来る人も結構居るのは、すぐそばに『丸山千枚田』があり熊野古道？と一緒に組み込まれたコースだからです。
『とおり峠』だけを歩いただけなら、大したこと無い峠だと思うでしょうが、千枚田の上に出たとき下を見てください。とおり峠の道はそのはるか下の谷底に通じているのです。登れば下らなくてはならないのです・・・

by **je2luz** | 2006-05-03 11:04 | 熊野

2006 年　05 月　04 日

熊野の旅　熊野古道と脇道　2　風伝峠・茶屋

熊野古道・浜街道から山に向かい紀和経由で本宮方面にに向かう峠としては『風伝峠』が重要な峠でした。
海沿いに走る御浜街道の新宮と木本の中間点の阿田和（あたわ）から直角に分かれる『尾呂志街道』（おろし）に入り尾呂志川沿いに真直ぐ山に向かいます。そして分水嶺を越えるところが風伝峠です。
ここは古くからの街道としての要所でもあったようですが、華やかだったのは紀和・入鹿（いるか）に鉱山が開かれてから閉山なるまでの間でしょうね。
鉱石は空中を通る索道で運ばれましたが人間が乗ることが禁止されていましたから、人はこの風伝峠を越えて入鹿に向かいました。
紀和（入鹿）は熊野市と合併した去年秋には一千人台まで人口は減っていましたが、戦中・戦後のピークには一万人を越す人でにぎわったところですから、この風伝を越える人の数や物の量は近隣随一だったのです。鉱山関連以外にも北山川を使った木材搬出の筏流しの筏師も新宮に筏を届けると浜街道で阿田和に来て尾呂志街道経由で北山方面に帰ったのです。
風伝峠も新道と言われる車の道に変わり、歩く道は忘れられてきました、更に近年国道の改修で峠のすぐ下にトンネルが掘られ風伝峠を通る車も激減しました。
風伝峠には鉱山があった頃からの『風伝茶屋』があり『風伝餅』が名物になってきました。道路が頂上を越えていた頃にはおばあさんが風伝餅を作っていました。そして、道路が越えなくなっても同じ場所で風伝茶屋は残りました。
今では熊野古道の脇道としての『とおり峠』『風伝峠』や『丸山千枚田』に来る観光客相手に営業しています。餅の作り手は代替わりしたはずですが頂上に一軒だけ建った『風伝茶屋』は今も日常生活の場を兼ねた地道な営業を続けています。
国道を走って目的地に直行するとこの前は通らなくなります。ほんの少し、ほんの数分回り道すれば…

　観光的、私的には以前の古びた昔ながらの『風伝茶屋』の方が好ましいのですが、改築されて新しいものになっています。生活の場ですからこれも仕方ないでしょうね。

by **je2luz** | 2006-05-04 11:52

2006 年　05 月　05 日

熊野の旅　熊野古道と脇道　3　風伝峠

今はトンネルの上に残された道と風伝茶屋だけの風伝峠ですが、ここの賑わいはかなりのものだったようです。

私が子供の頃にはまだ鉱山が稼動していたのですが、一度も入鹿村には入ったことはありませんでした。大人になって鉱山もなくなり過疎が進みだし、紀和町になってから初めてこの峠を越しました。そのときも茶屋では『風伝餅』は売っていました。買う人が少なくなった頃に名物になった感じでした。

風伝茶屋のすぐ脇には風伝峠の由来を書いた観光看板などが立ち並び、歩いた時代の尾呂志街道らしき細い道も残っています。

この尾呂志街道は入鹿鉱山を支える重要路線でしたが、鉱石は道路を通らず空中に張られたケーブルによる『索道』で紀勢線の『阿田和駅』まで運ばれました。
阿田和の駅から延々と山を越えて伸びる索道のケーブルと鉄塔群をかすかに記憶しています。ケーブルに架けられた運搬用の箱？は荷物が重い鉱石だけに小さなものでしたが、点々と一杯ぶら下がっていました。
鉱石が空中を進もうと一万を越す人口を支える道路の賑わいはかなりのものであったようで、戦後の混乱期にはこの峠を越えて新宮や木本から商人が闇物資などを運びこみ、中には財をなした人もいたようです。しかし、その時代を知る人はどんどん居なくなっています。入鹿鉱山などと言うものも最早郷土史の中だけのものになりつつあります。

by **je2luz** | 2006-05-05 11:20

2006 年　05 月　06 日

熊野の旅　熊野古道と脇道　４　風伝峠

旧と付けたほうが良いのかもしれませんが風伝峠は分水嶺であり行政の境でもあります。昔は南牟婁郡尾呂志村と南牟婁郡入鹿村の境でした。５０年ほど前に尾呂志村は御浜町に入鹿村は紀和町になり、さらに去年２００５年１１月に紀和町は熊野市と合併して熊野の一部になりました。

この風伝峠を越える道が現役だった頃には当然紀和町は独立した紀和町でしたから、全国床のでも見られる町境の『歓迎』の立て看板は旧紀和町が立てました。今なら『歓迎・熊野市』のはずが『歓迎・紀和町』のままの看板が残っています。撤去主体がなくなっちゃいました。

そのすぐ横には明らかに去年の１１月以降に設置された道路標識が立っています。それには『熊野市』となっています。ほとんど車の通らなくなった旧道の風伝峠でも縄狩りを示す標識はすぐに立てるものらしいです。

この小さな掘り抜きの峠の向こう側・山側とこちら側・海側では全く気候が違います。実感するのは冬でしょうね。その気温差の大きさで紀和町側で冷やされた空気が山を越えて御浜町側に降りる時霧が発生しものすごい勢いで駆け下ります。それほどの気温差があるのです。冬は紀和町側には住みたくないですね。

by **je2luz** | 2006-05-06 11:58

2006 年　05 月　07 日

熊野の旅　ゴールデンウィークの紀勢本線

暇な紀勢本線もゴールデンウィークには旅客の増加が見込まれるのか、特急列車が増結されていました。車両なども随分減らしたはずですがまだ増結できるくらいは残してあるのですね。

そうそう、『紀勢本線』と簡単に書きますが、この線は前にも書きましたように昔は一本ではなく東西に分かれて『紀勢西線』と『紀勢東線』になっていました。そして、やっと繋がったと思ったら国鉄分割民営化でまたまた二つに分けられた路線です。
昔は紀伊木本駅（現・熊野市駅）が紀勢西線の終点でしたが、今は行政区分もあり新宮までが西日本旅客鉄道・JR 西日本で鵜殿までが東海旅客鉄道・JR 東海です。東海側の列車は新宮駅始発ですが JR 西日本の列車は三重県側には入ってきません。
言うなれば紀勢本線は分かれ目を変えただけで再び『紀勢西線』『紀勢東線』になったわけです。西線側は電化されていますし、東線側はディーゼルです。

写真の特急・ワイドビュー南紀もディーゼル特急です。電車特急と違い加速時などものすごいエンジン音をとどろかせます。熊野市尾鷲間は半分以上トンネルですから密閉型車両でも結構響きます。
紀勢東線側は線路の改修などで速度が向上して名古屋から熊野市までで３０分短縮されました。今では２時間半ほどにはなっていますが、やはり遠いところには変わりません。それに、客が居ないから列車が無い、列車が無いから利用できない…鶏と卵？…まあ、増やしても赤字が増えるだけですから線路を外されないだけましと言うのが現状でしょうか・・・
　紀伊半島南部の人口がせいぜい１６万人、そのうち年寄りが５万人です。残りの見込み客を東西に振り分けて逆向きに輸送するのですから、二つの会社共に苦しいですね。あと１０年もすると果たして特急なんて走っているのでしょうか？
カメラは　ツァイス　イコンタ　**521/2**　テッサー**105**ｍｍ　**1938**

by **je2luz** | 2006-05-07 11:58

2006 年　05 月　08 日

熊野の旅　熊野古道案内　丸一年　ありがとうございます

この記事で丁度一回り最後のものになります。
このコーナーを立ち上げたのが去年のゴールデンウィークが終わった５月９日でした。早いもので一年経ちます。
熊野古道、それも熊野市を中心にした辺りをうろうろ、かと思うと関係ないところに飛んだりしてきました。そんな記事なのにいつも来ていただく人とが居られるのが励みとなって続けてきました。本当にありがとうございます。
少々皮肉れたところもありますから、観光案内ではないところも出てきますが、熊野古道関連の公式ＨＰではないのでご容赦ください。本音、現状は隠しませんから・・・
無精者なので中々写真取材に出ません。カメラのテストも家から半径 500ｍほどで済ませてしまうくらいです。
「天気が悪い」「カスミがある」「車が多い」…色んな口実で出てゆきません。出てゆかないので写真のネタが切れて記事が書けなくなってきます。
予定している紀勢西線側の撮影もそろそろ行かないと、そろそろ「暑いから」と言う口実が出てきます。
この撮影に行ってくれば新宮から串本まで１５ほどの駅数ですから駅紹介だけで

半月分あります。間を少し紹介すれば一ヶ月はネタ切れしなくなるのですがね。それに、自宅から串本まで 75Ｋｍしかないのです。普段は道が混むわけでもなし、新宮、勝浦。串本を除けば無人駅ばかりでフリーパスでの撮影も出来るのです。

天気が固まったら、黄砂も来ないでしょうし五月晴れの写真日和になることでしょうね。早起きして出かけなくてはと思います。と言うより寝ないで出かけないといけないでしょうね。大体、シンガポール時間くらいで生活していますから、今の時期になると寝る頃に夜が明けてきます。

これからも出来るだけデジタルカメラの写真ではなくきちんとクラシックカメラで撮った写真をネタに書いてゆきたいと思います。

私のネタを作ってくれる古いカメラたちが出かけたがっています。

これからも懲りずに遊びに来てください。

取材協力隊代表　以下待機 20 機種ほど

by **je2luz** | 2006-05-08 12:33 |